

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム設楽の家
(ユニット名)	3号館
所在地 (県・市町村名)	愛知県北設楽郡設楽町
記入者名 (管理者)	垣内千鶴
記入日	平成 20年 6月 12日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型として、住み慣れた地域で馴染みの人達と安心した暮らしができるように支援することを事業所の理念とする。	○	地域密着型となり、長年暮してきた環境地域の顔見知りの人達との交流によってその人らしく、ゆったりありのまま暮らし続けていきたいと考えます。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや利用者に関わる際、理念にふれ確認し合うようにしている。	○	すべての職員が理念について理解をし、それを介護に反映できるようにして行きます。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	住み慣れた環境の中で顔見知りの方達と関わり生活する安心感を知って頂き、お便りや見学会によってどのように過ごされているかを理解して頂くようにする。	○	どこまでも個人のプライバシーは守るようにし、これからも家族の方や地域の型に理解して頂けるようにして行きたいと考えます。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外食などに出掛け、近隣の人たちと挨拶を交わしたり話をしている。	○	地域的に狭く、受診に出掛けたり、買い物に出掛けた際、顔見知りの方達と会う機会も多いので、きっかけを作りたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元小学校の運動会見学を企画して利用者とともに積極的に参加している。	○	地域のお祭りや運動会には参加し、ボランティアの方も時々、ホームに来て頂いているが、もう少し地域とのかかわりを持っていったら良いと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が介護に関する知識を研修を通して学んだり、職員同士又、ほかの職場の意見交換会・職場体験等に取り組んではと思います。	○	研修に参加したり、定期的な研修レポート提出等を機会に自分自身で勉強し、知識を得ることが大切だと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関してはいつも館長の方からどのようなことに対して評価を受けるのかを聞かされ十分に理解しています。外部評価も回数を重ね、その度に悪かった所は改善するようにしています。	○	前回の評価結果と比較し、改善すべき点は積極的に直しよりよい結果を得ることができるよう努力して行きます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、会議を開き話し合いをして今後のサービス向上に備えています。	○	事業所の意見も聞いて頂いたり、見識のある方々に指導をして頂いたりしてよりよい事業所になるよう日々努力しています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は役場・居宅介護支援事業所・病院等を訪問し、信頼を確保し、サービス向上に取り組んでいます。	○	地域の介護支援相談員と密に連携をとり、情報を得て信頼を築き上げています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員については、知識不足の人もいます。	○	介護だけではなく、最小限必要なことに関しては、ある程度自分で勉強する必要があるのではないかと思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最近、特に虐待に関しては世間で騒がれているので、どこからが虐待になるのかという見識は持つ必要があると思います。	○	病院で許されることもグループホームでは虐待と言われるので、日常の介護の仕方にも配慮して取り組んでいます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な説明・話し合いをした上で納得していただき、契約書も全部読み上げた上で契約しています。	○ 利用者や家族が不安や疑問を抱かないようにしていきます。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満は職員で話し合い、日々のケアに努めています。	○ 利用者や家族の方とは、信頼関係を持ち、不満・苦情は速やかに対処しています。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族様に報告すべき事は管理者個々に、随時に報告し、月一回のご家族様への手紙にて日ごろの生活・健康の状態をお知らせしています。	○ 今迄通りに、報告をおこたらずにより一層の信頼関係を築いていきたいと考えています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けていないけれど、ご家族の方がお見えになった時には会話する時間をとり、その中でご家族様の思いを汲み取っています。	○ これからも話す機会を多くとり、よりよいサービスを提供していくつもりです。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは、仕事に関する内容は密に取り、意見を出し反映させています。	○ リーダーミーティングを定期的に行き、意見の交換をし、リーダーから職員に決定していることを報告し、職員全体に行きわたるようにしています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ローテーションは、必要時人員確保を考慮して汲んでであると思います。	○ 職員が、体調や不慮の事故・冠婚葬祭等で休みが必要になった時、ゆとりを持った休日が取れるよう人員確保をお願いしたいです。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ職員を固定しているけれど、常に全体の利用者に関わり、どの館にも対応できるようにと管理者より指導を受けているのでダメージは少ないと思います。	○ 固定していることで利用者に対して理解度は深まっていくけれど、全体の利用者を知ることによっていろいろな面でダメージを最小限にできると思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A課程・AA課程などの研修を受けています。	○ その他の研修等にも積極的に参加し、介護に対しての質の向上を皆で共有していくべきだと思います。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は交流することはないが、管理者は訪問しています。	○ 他の事業所やグループホームへの見学をして事業所以外の人材の意見や経験を聞き、勉強したいと思います。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人で決められた時間を毎日取ることは可能なので、利用者と一緒にテレビを観て心身休める時間を確保しています。	○ それぞれが自分にとって一息入れる事ができれば、ストレスの軽減に結びつく事にもなるので、無理に時間を作らなくても今迄のように利用者の方との休める時間を共有すれば良い。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が意欲を持って働く事ができるよう、資格取得に向けた支援を行い、取得後は職員が向上心を持って働けるような対応している。	○ 身体的な管理も年2回健康診断をして異常が無いように心身共に管理されている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族だけではなく、本人から詳しく情報を集めて受け止める努力をしています。	○ ご家族・本人から細かく情報収集をして、できるだけ本人の話を傾聴するようにし、状況を把握するようにしています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談に見えた時、情報収集を詳しく聞き、受け止める努力をしています。	○ 今、家族が一番どのような事で困っているかを把握し十分対応を心掛け、安心して信頼関係ができるよう努力しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にみえた時、ケアマネージャー等と連携を計り、必要に応じて他のサービス利用が必要な場合には速やかに対応する。	○	本人と家族に対しての対応を事業だけで抱え込まず、何が本人に対して必要なのかを見極め、他のサービス利用の調整を行う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	来所できる方は、何回か来ていただき、他の利用者様と話をされたりして馴染んでいただいています。事前に訪問し、本人と顔なじいになり、少しでも不安を軽減するよう心掛けています。	○	安心して、ここでの生活が出来るように本人に対して十分な理解をし、対処するよう職員一同で努力します。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	楽しいときには、一緒に笑い、落ち込まれた時には、一緒に悩んで助言したりしています。	○	生活を共にし、一緒にいる時には、本人の気持ち・思いを十分にくみ取りその人に合った対応をする。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にしながらも共に本人を支える関係を築いている。	○	家族の来訪時には差し障りの無い距離を取り、本人の潤滑油になるよう心掛ける。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態をこまめに報告・相談し、本人と家族との関係が途切れる事のないように、良い関係が保持できる支援している。	○	家族の方に、行事参加などをして頂き、共通の話題をもって頂いたりする機会を増やしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	正月やお盆などには、外泊され近所の方々と交流をされています。	○	許される限り、家族の方に協力していただき、交流ができれば喜びを感じられるよう支援しています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の長所を見つけて、その長所を活かし、皆様との交流を深めています。	○	一人一人の長所・短所を把握し、職員が調整役となって支援しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談・助言等をしている。	○	気軽に立ち寄れる雰囲気を作り、また企画行事の時には案内状を出し、関係を断ち切らないようにしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声掛けし、希望や意向を話して頂いている。	○	余暇活動を通し、利用者様の気持ちを把握し、できるかぎり利用者様本人の意向に添えるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様に昔話をしたり、家族・知人等の訪問時などに少しずつ把握をしている。	○	体験談など、利用者様同士で話をする機会を作り、また職員が知った情報を全ての職員で情報共有していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で情報交換したり、本人の求めている事、秘めている力を引き出し、その人全体の把握に努めています。	○	本人のできる能力に合わせて、持っている力を出し、また伸ばせる能力は伸ばしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き、ケアに反映させるようにしている。	○	本人や家族の要望を聞き、本人主体の暮らしをして頂きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した時には、職員でミーティングを聞き、検討・見直しをしている。	○	現状と介護計画の違いがないよう、実状に応じたケアにつながるケアプランの見直しをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録をつけ、様子が違う時など、詳細記録に記録している。	○	今まで通り、細かくチェックし、記録を残していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望を軸に対応しています。	○	今後も続けて生きたいです。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して、地域での暮らしを続けられるように、関係機関と意見交換する機会を設けている。	○	地域の機関等と協力しながら、必要に応じた対応をしていきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、適切に事業所以外のサービスとつなげるよう、外部のケアマネジャーと連携を図っている。	○	本人にとって最も適したサービスを利用できるよう継続して欲しいと思います。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域のサービス事業者、関係団体、民生委員、一般住民等によって構成される方達と認知症の方を地域で支える協働しています。	○	今後、認知症の人が益々多くなり、より一層、地域包括支援センターとの協働が大切になっていくと思います。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する「かかりつけ医」となっている。受診は、本人や家族の希望に応じて対応している。	○	今後も本人や家族の希望を大切に受信していきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	指定医の指示に従い、支援を受けられるようにしている。	○	常に指定医との連携を結び、必要性がある時には最も適切と思われる所に紹介状を書いて頂いている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特に看護職との協働はしていない。	○	看護職員を配置し、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院のソーシャルワーカー等に意見を聞き参考にしている。	○	面会に行ったとき等、その時の状態を病院関係者から情報を得て把握するように努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化があるごとに、医師・家族との話し合いを行い、常に最新の方法での対応を行っている。	○	家族・キーパーソンとの連絡が取り難い利用者についても施設からの連絡をまめに行っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医・家族・本人・施設の職員との話し合いを持ち検討している。	○	十分に検討し、本人・家族にとってもっとも良い方法が取れるよう支援して行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの時には、本人に不安を与えないよう情報交換を行っている。	○	本人に対して、一番ダメージを最小にとどめるよう、職員・家族とで話し合い、情報交換をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関する話を話さないようにしている。本人のプライバシーを損ねたり、誇りを傷つけたりしないよう職員一同、常に気を付け対応している。	○	人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして本人も傷つけてしまわないよう、目立たずさりげない対応をしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側で決めた事を押し付けるような事はせず、利用者に合わせて声をかけ、些細な事でも本人が決める場面を作っている。	○	些細な事でも本人の意思決定を優先し、希望を持ち納得して生活して頂けるよう支援して行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の一人一人の体調に配慮しながら、その日その時の気持ちを尊重してできる限り希望にそえられるよう支援している。	○	職員の都合に利用者を合わせるのではなく、一人一人のペースを把握し、その人に合った生活がして頂けるよう支援して行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは基本的に本人の意向で決めており、職員は必要に応じて手伝うようにしている。また、自己決定のしにくい利用者は職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿った支援ができるようにしている。	○	女性の利用者が多いので日頃から本人の意向に添った化粧やおしゃれを楽しんで頂けるよう、支援して行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・片づけ等、強制的ではなく本人の意向に添ってお手伝いもお願いしている。職員と利用者が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしている。	○	献立作りから、利用者と相談しながら決めるようにしたい。調理や盛り付け方を工夫し、食欲がでるよう気をつけたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アルコール類のみ提供していないが、本人の希望する嗜好品をできる限り提供するようにしている。健康状態から取り入れられないもの、共同生活において無理なものもあるため、全て希望通りに提供できるわけではない。	○	健康状態や共同生活をしているということも考えた上で許される範囲のものであればできる限り提供して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることや尿意のない利用者にも時間を見計ってトイレ誘導する事により、トイレで排泄できるよう支援している。	○	トイレ誘導をしても応じてくれない方への対応なども考え、個々の時間や習慣をもっと詳しく把握していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望の時間帯に入浴していただくのが、理想ですが、それができない為、時間帯を決めて許された時間内にゆっくり入って頂く様にし、また、その日の体調・希望等確認しながら、毎日入浴して頂けるようにしている。	○	入浴の時間帯は変えられない為、許される時間の中で十分に楽しんで頂けるよう支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日常の活動を促し、夜間ゆっくりと睡眠がとれるよう、生活リズムを整えるよう、努めている。利用者それぞれ、自由に休息して頂けるようにしている。	○	日中、無理矢理起こして活動させるのではなく、その時々体調など状況に合わせて休息したり活動して頂いている。一人ひとりの生活リズムを把握し、夜間安眠できるよう支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や農作業・工作・歌など、得意分野で一人ひとりの力が発揮でき、気分転換ができるよう、利用者一人ひとりに合った支援をしている。	○	マンネリ化しないよう、日々、方法を変えたり外食や買い物にも出掛けられるよう企画も増やしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は、一切しておらず、ご家族より預かった小遣いは施設が管理している。	○	ご家族より預かった小遣いは、施設が管理するため、利用者が手元に持つことはないが、職員が付き添いながら支払いをするなど、お金に触れる機会を作れたらと思う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境に恵まれた場所であるため、天気や本人の気分・希望に応じて、施設周辺の散歩・日光浴を積極的に行っている。	○	日常的に買い物・ドライブなどの外出支援ができていないのが現状ではあるが、日常的に外出支援ができるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月一回程度、外食などの外出ができるよう企画を立てるようになっています。	○	必ずしも、出掛けられるという訳ではないのが現状である為、少しでも外出できるよう、職員の勤務や日程を調整するなどして、支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて手紙を出せるようにしている。電話は利用者の状態により、できない場合があるので職員が変化に対応している。	○	月に一度、職員がご家族へ近況などを書いた手紙を出している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会にみえた際、笑顔で挨拶すること、家内の明るい雰囲気作りを心掛け、いつでも気軽に訪問していただけるようにしている。	○	面会にみえた際、必要に応じて居室で話をさせていただいたり、ほかの利用者との話ができる場を作るなどして対応している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自覚をしない身体拘束が行われていないか等、日々職員同士で確認点検しあっている。人格の尊重をしている。	○	身体拘束は、絶対にしないことをモットーとし、自覚しない身体拘束が行われていないかを、職員同士で確認・点検し合っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中・玄関・居室に鍵を掛せず、利用者が外へ出られそうになっても、さりげなく声掛けするなど、見守りを忘れず、安全面に気を配りながら、できる限り自由な暮らしを支援している。	○	利用者が外へ出たがっても、その時の状況により、止めてしまうこともある為、鍵を掛せず自由な暮らしを支援するにはどうすべきか、もっと検討する必要がある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者と同じペースにて過ごし、全員の状況を常に把握できるよう見守りし、夜間はセンサーの使用。こまめな見回りをすることで、利用者の安全確認に配慮している。	○	見守り・見回りについて、今まで通り継続し、常に利用者の状況を把握し、安全確認に配慮する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、職員が管理・保管をし、またご家族に説明をし、了解された上で持ち帰っていただいている。	○	危険な物品全てを取り除くのではなく、一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐよう取り組んでいる。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然にして防ぐ為の工夫に取り組み、事故が発生してしまった場合でも、情報の共有化をして再発防止に役立っている。	○	一人ひとりの状態を日々観察し、事故を未然に防ぐ為の対応をしなければならぬ。また、事故が起きてしまっても、情報共有者の場を作り、再発防止に役立てるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていないが、自主的に行っている。	○	全ての職員が対応できるように研修・勉強会などへの参加をする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と共に避難訓練を行っている。6月1日、地域の人たちと水害の避難訓練を行いました。	○	これからも継続して行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様へ、事業所の取り組みを説明すると共に、面会時や電話などで説明し、理解をしていただけるように努めている。	○	入居者様、一人ひとりに対して定期的な見直しをしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックをし、記録を付け、職員間で申し送りをしている。	○	入居者様、一人ひとりの様子を把握しておくとういと思う。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤情報提供書が保管されており、いつでも職員が内容を把握できるようになっている。服薬時は、本人に手渡し、服用できているか確認している。	○	薬の変更があった時には、様子を観察して異変に気をつける。誤薬のないように気をつける。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量・排便の記録を毎日付けている。食材の工夫や散歩・ラジオ体操等で進退を動かすようにしている。	○	食べ物などに気をつけている。頑固な便秘にならない内に対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各居室内に洗面台があり、毎食後、歯磨きの声掛けや介助をしている。	○	毎食後、口腔ケアの支援をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容を記録している。一人ひとりの食事の量を毎食チェックし、記録している。	○	定期的に栄養士などにチェックしてもらい、アドバイスが頂けるとよい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	指示により対応に取り組んでいる。	○	AA課程で感染症や感染予防の知識を得ています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔を心掛けている。食材等はできるだけ早く使用するようになっている。	○	食中毒のおきる時期には刺身等の生ものは提供しないようにし、必ず一食品には火を通し、まな板等の消毒は怠らないようにし、冷蔵庫の清潔にも気をつけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターや植木鉢に花を植えたり、ベンチを置いたりしている。	○	花を置いたり、開放感や安全面から自動ドアのスイッチを切り、玄関の戸は開放して出入りしやすいようにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	話し声やテレビの音量に注意している。	○	常に室内は清潔を心掛け、壁には四季折々の花などを折り紙で折って飾り、季節に咲く野花を花瓶に入れ、飾っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、テーブル・椅子・ソファ・コタツなどがあり、入居者様には、思い思いの場所で過ごしている。	○	冬は馴染みやすい量の空間があり、コタツに入っておしゃべりをしたり、テレビを観られたりしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の各部屋には、家で使い慣れた道具・家具を持ち込んで頂くようにしています。また、花等を飾って楽しめるように心掛けています。	○	個室等は、安全な場所として使用できるように、職員が注意を払っています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時々、ホールや各居室の窓を開け、換気をしている。洗面所は毎日洗い流し、掃除もこまめにしています。空調も気温に応じ、こまめに調節しています。	○	現状を維持し、特に外からお見えになったお客様・ご家族様に不快な思いをされないように、においには気配りしています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、至る所に手すりがつけてあり、外部から居室までの出入りまで全てに段差がなく、トイレのスペースも広く、シルバーカー・車いすでも対応できるようになっています。	○	手すりを利用し、残存機能を活かして自立できるように支援しています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・浴室には、分かるように大きな文字で表示し、日には大きな数字でカレンダーを作って、利用者様に毎日、印を移動してもらい、日付の確認をしています。	○	これからも職員で色々な意見を出し合って検討し、混乱を防ぎ、自立した暮らしが維持できるように、工夫していきたいと思います。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の外周には、環境に恵まれ、四季折々の景色が楽しめるので、野の花を摘みながら散歩を楽しまれています。	○	外にはベンチを何脚も置き、全館の利用者様が座れるようにして、歌を歌ったり、おしゃべりをされたり、ラジオ・リハビリ体操をされたりして、楽しまれています。これからも色々な内容に取り組んでいきたいです。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご家族様との信頼関係は、特に力を入れ取り組んでいる点だと思います。最近では、ご家族様にも理解され、信頼を得ています。利用者様の小さなことでもすぐ連絡をし、詳しく説明し、了解を得ています。特にアピールしたい点は、利用者様の健康管理は怠らず、異常があればすぐに病院受診をして大事に至らないようにしています。